

ウナギ資源ワークショップ2014 要旨

東アジア鰻資源協議会・日本支部会

会長 塚本勝巳

2014年7月26日に開催された、ウナギ資源に関するステークホルダーが集まって議論を行ったワークショップ「ウナギ資源ワークショップ2014」について、以下のように報告する。

記

1. 主催：東アジア鰻資源協議会・日本支部会
2. 日時：2014年7月26日（土） 9:00 から 17:30
3. 場所：東京大学農学生命科学研究科（東京都文京区）・セイホクギャラリー
4. 参加団体・参加者（順不同・敬称略）：ロンドン動物学会（Matthew Gollock）、日本鰻協会（吉島重鐵）、日本養鰻漁業協同組合連合会（白石嘉男）、全国養鰻漁業協同組合連合会（村上寅美）、全国淡水魚荷受組合連合会（鈴木紘彦）、日本養魚飼料協会（白鳥勝）、日本鰻輸入組合（森山喬司）、全国蒲焼商組合連合会（涌井恭行）、全国内水面漁業協同組合連合会（大越徹夫）、パルシステム生活協同組合連合会（高野智沙登）、水産庁（太田慎吾）、環境省（中島慶二）、国土交通省（中村徹立）、水産総合研究センター（内田和男）、東京大学（大竹二雄・木村伸吾・青山潤・黒木真理）、中央大学（海部健三）、北里大学（吉永龍起）、日本大学（塚本勝巳・渡邊俊）、九州大学（望岡典隆）、三重大学（勝川俊雄）、立正大学（櫻井一宏）、東京医科大学（篠田章）、長崎大学（横内一樹）、WWF ジャパン（前川聡）、日本自然保護協会（安倍真理子・辻村千尋）、トラフィックイーストアジアジャパン（白石広美）ほか、20名程度のオブザーバーが同席
5. 要旨：
 - (1) IUCN Red List Threatened Species 2014.2において評価結果が発表されたウナギ属魚類のアセスメントについて、責任者の Matthew Gollock 博士（ロンドン動物学会）より、説明が行われた。
 - (2) 参加者より、ウナギ資源をめぐる現在の状況について、個別に考えが述べられるとともに、今後取るべき対策について意見交換がなされた。
 - (3) 今後の計画について、以下の事柄について同意が得られた。
 - (3)-1 今後も、ウナギ資源ワークショップ2014（以降、「本会」とする）と同様の会合（以降、「今後の会合」とする）を継続して執り行う。
 - (3)-2 今後の会合では、(i) シラスウナギ・黄ウナギ・銀ウナギの漁獲管理、(ii) 河川や沿岸域など成育場の環境保全と回復、(iii) 資源動態、および資源回復のための対策が生じさせる効果・影響のモニタリング、(iv) 社会全体での情報共有、の4点について検討する。
 - (3)-3 今後の会合への参加者、開催時期、および運営形態については、協議のうえ決定する。
 - (3)-4 (3)-3に記載された、今後の会合の準備については、本会の事務局である東アジア鰻資源協議会・日本支部会が中心となって進めることとする。

以上